

特集

①

若い男女の出会いの場づくりを通じて 見えてきたもの

NPO法人元気島プロジェクト 事務局 上甲 教文 (宇和島市戸島)



宇和島に浮かぶ 3つの島で婚活イベントを開催

平成27年7月25日。宇和島市の西約20kmに浮かぶ戸島で婚活イベント「海婚」を開催した。男性は13名で全て戸島の島民。女性は、東京・大阪・広島・そして県内各地から16名の参加があった。

戸島へ集合



戸島では初めての婚活イベントであり、参加する男性はもちろん、スタッフも全員が初めての経験であったことから、正直なところ、今年は色々やってみて、来年以降にその経験が活かさればいいと考えていた。ところが、結果は8組のカップルが誕生し、翌週末に行われた日振島でのイベントでも男性14名、女性13名中、7組のカップルが誕生し、想像以上の成果があった。(8月末に九島でも婚活イベントを開催)

戸島とNPO法人元気島プロジェクト

今から40年前の1975年当時、戸島小学校の児童数は75名であったが、その後減り続け、2015年度の児童数は20名。東京オリンピックが開催される2020年度には14名程度となる見通しである。



バーベキューで交流

NPO法人元気島プロジェクトは、「産業の活性化」を大きな課題として発足した島民団体であり、主力である水産業の活性化や新たな産業を育成することが最大の課題である。産業が発展して島民の生活が豊かになれば、過疎化、少子化などの問題が改善される可能性が高い。しかし、産業を発展させるには時間がかかる。地域全体の産業構造を変えたり、新たな産業を育成したりするには10年、20

年は必要である。しかも必ずうまくいく保障はない。仮に20年かけて島民の暮らしが豊かになったとしても、そのときに戸島小学校が無くなっていたら、何のための活性化だったのか?ということになる。それほど小学校の存続は島島にとって重要である。

条件不利地域ということと 他の離島も入れたらどう?

2014年10月、ふるさと納税で宇和島市に集まった寄付金の使い道を決める「ふるさとつわじま応援事業」の募集に、NPO法人元気島プロジェクトが、戸島の婚活イベントの実施を提案した。この時点では、戸島単独での開催を計画していたが、この選考過程で行政側から「戸島だけではなく、条件不利地域ということと他の離島も含めた提案にしたらどうか」という前向きな意見が出たため、すぐに日振島と九島に打診。両島から即座に「やりたい」との返答がきた。どちらの



バナナボートで遊ぶ参加者



島にも明確に課題意識があったのだ。

大きな壁に小穴を空けた婚活イベント

「閉鎖的な島やけん、上甲が来て何も変わらんとする」と思う

私が戸島に移住してきたとき、島内唯一の知り合いから最初に言われた一言だ。

悲観的な見方をすればそのとおりかもしれない。でも：。こんな四国の端っこの離島でやる婚活イ

ベントに、予定よりも2週間も早く募集を締め切るほど応募が殺到すると誰が予想しただろうか。5割以上の確率でカップルが成立することを誰が予想したのだろうか。

「やってみるもんやな(笑)」島の多くの人達がそう感じたはずである。

こうした体験を積み重ねていくことで島全体の「やれる雰囲気」、1人ひとりの「やる気」を醸成していくきっかけになればと思う。

素人がやる地域おこしだから

「知らないんだから、頭を下げて教えて

貰いましょう」「知らないけども、失敗を恐れずにやってみよう」

これが地域おこしの素人集団である元気島プロジェクトの姿勢である。

私も含めて元気島プロジェクトに参画している島民全員が地域おこしの素人である。前述したように、婚活など参加したことも運営したこともないことから先駆者を頼った。長野県で移住や婚活に専任で携わっている人と知り合い、メールでのやりとりでノウハウを教わって、できる限り企画に反映させた。参加予定の男性たちにイベントプログラムの立案から準備、運営まで任せたのも、経験者の「男がその気ならんとうまくいかんよ」というアドバイスを受けてのことだった。いろんな人に教えて貰い、協力してもらわないと前に進めない。ただし、支援者、協力者が現れるまで待つのではない。「やる」決意をして動き出したとき、前向きなアドバイスをしてくれる人や協力者が現れるのだと思う。



ディナーパーティの様子

失敗の連続を覚悟して

戸島の地域おこしにとつて決して目を背けてはいけない課題がある。先にも少し触れた産業の活性化と移住促進である。

戸島を将来世代に繋げていくためには、産業を盛り上げて島民の生活を豊かにすることである。さらに島を出て行く若者の数以上に、若者が移住してくる島にすることが必要で、これらを実現するためには乗り越えなければならぬ難問がいくつも積み重なっている。

「海婚」は、想像以上の成果であったが、十中八九失敗するはずの挑戦で、たまたま最初に良い結果が出ただけ、と捉えるのが冷静な判断だろう。今後、取り組みテーマは難易度が上がってくるため、なかなか期待した成果がでない可能性が高い。それでも、今回の婚活事業を通じて、戸島の若い男性が潜在的に持っているエネルギーを垣間見ることができた。これから難題に挑戦するNPO法人元気島プロジェクトにとつて、これほど心強いものはない。



日振島 - 沖の島へ向かう渡船で